



# SPORTS

*Fukushima www*

READY SOCIAL株式会社  
代表取締役 佐藤 夏美

「若者とイノベ企業の マッチングフェス〜ツアー開催事業！」

©Copyright 2025 READY SOCIAL inc. All Rights Reserved.



FUKUSHIMA  
WWW

©2025 READY SOCIAL INC.



## 事業内容

02-1: 女子サッカー事業

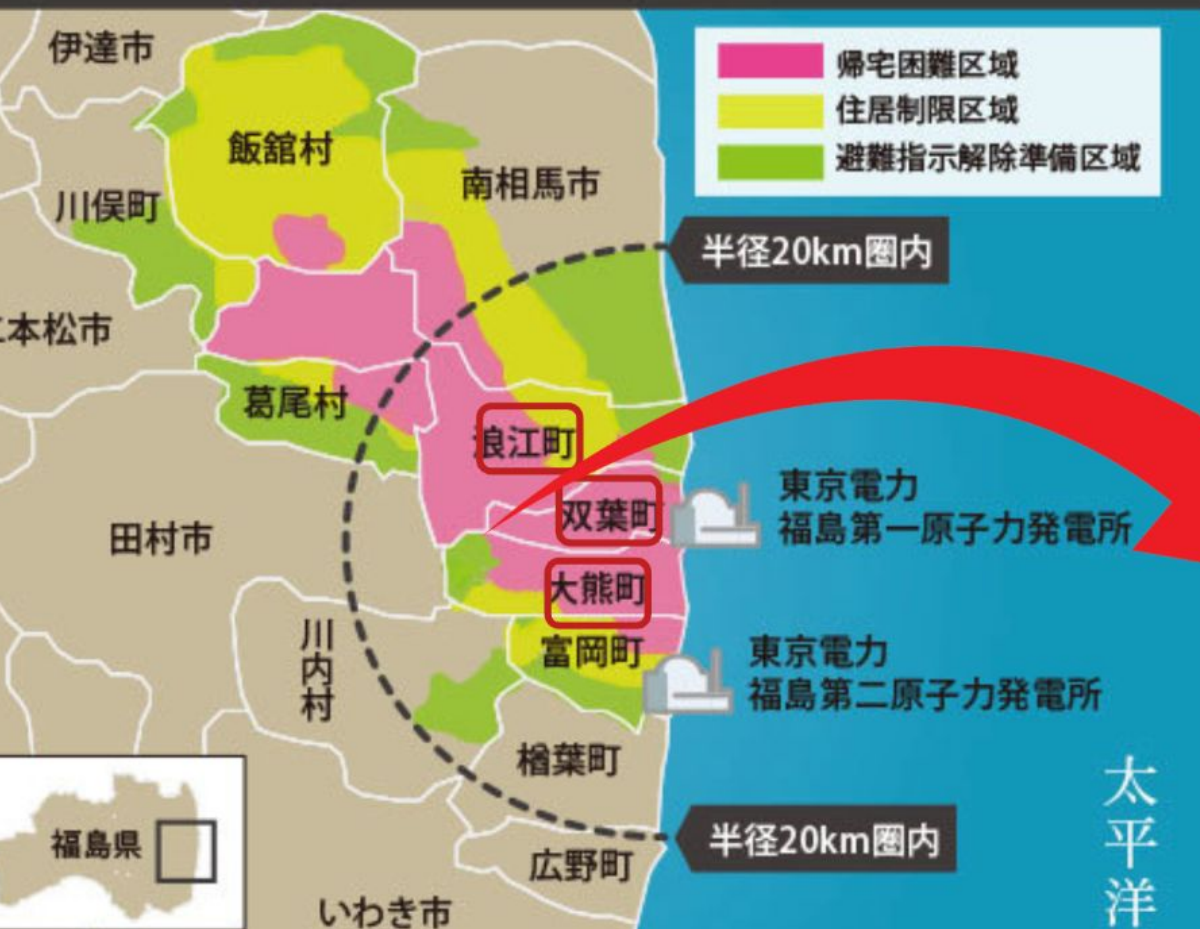
02-2: 自治体連携事業

02-3: SIM事業

02-4: 森林事業



# 避難指示区域の状況 (2015年9月5日時点)



チーム全員移住者  
女子サッカーチーム設立  
選手/スタッフ/関係者

2025年16名が移住  
2026年も移住者増加中

2030年まで  
130人の移住目標



# 【イノベ構想及び本事業に対する考え方】

## 課題



継続的な交流・  
関係人口の呼び込み



担い手人材の確保と  
事業継続性



自立的・持続的な  
地域連携体制

## 考え方（アプローチ）



若者に「ワクワク」を発信し、  
興味関心を喚起



補助金に頼らない自立的・  
持続的な事業モデル構築

## 【事業提案の目的と全体像】

### 目的



農林水産部門の若者・アスリートをターゲットにコンテンツ開発



## 事業内容の2本柱

### ① フェスティバルの開催



展示会×フェスで  
「ワクワク」体感。  
パネル討論も実施。



### ② ツアーの開催

フェス参加者が  
企業を体験・見学。  
より深い関心へ。



実施エリア：浪江町、大熊町、双葉町



# 事業内容の詳細：フェスティバルとツアー

## ①フェスティバルの開催 (展示会×フェス形式)

### 狙いと特徴



認知向上と『ワクワク』の体感、  
熱量を直感的に伝達



若者が未来に希望を  
感じられる場を創出

### 主な内容



事業者紹介ブースでのピッチ実施



専門家によるパネルディスカッション



オンライン配信・アーカイブ化で拡散

## ②ツアーの開催 (体験・見学)

### 狙いと特徴



フェスで関心を持った、  
感度の高い層を集客



現場体験と当事者の想いに触れ、  
深い理解へ



関係人口・雇用創出につながる  
確かな接点

### フェスとの連携



フェス会場での告知と参加者募集



熱量の高い参加者をツアーへ  
誘導し、質を向上

フェスで関心を高め、ツアーへ誘導

# 実施計画とコンテンツ検証

## ①実施計画 (エリア・会場)



**実施エリア:**  
浪江町、大熊町、双葉町



**実施会場:**  
福島RDMセンター |  
會澤高圧コンクリート



**将来計画:**  
2年目以降は双葉町FUTATABIにて継続開催検討

## ②コンテンツ検証 (パネルディスカッション)



### 目的

今後の取り組みへの検証、モデル施策の形成。会場からの質疑応答も実施。

### パネリスト



- ・ 開沼博 氏 (東京大学准教授、震災復興研究)
- ・ 阿部翔太郎 (株式会社Re Fruits、LINEヤフー株式会社)
- ・ 佐藤夏美 氏 (READY SOCIAL代表、女子サッカーチームを通じた移住)

### 検証議題



- a: 若年層の流入に必要な受入自治体の要素
- b: 地域課題関心層とのマッチング可能性
- c: 農林水産業とアスリートのセカンドキャリアマッチング可能性
- d: イノベ構想エリアに求められる連携
- e: 来場者アンケートからのモデル施策形成



2025  
AUG  
31  
開催

# Event & Discussion

## フェスティバル ■ 実施内容

※右記参照

## □情報発信に関する実施内容

- ①学生実行委員による声かけ
- ②地方創生学生団体へ声かけ
- ③大学掲示板での掲示
- ④学生によるSNS発信
- ⑤大学生就職マッチングカフェでの呼びかけ

## □市町村との連携

(前提)選手の雇用先を浪江町内などで事前に情報収集していた経緯があり、企業との連携体制は当社の強み

### 【浪江町】

- ・産業振興課:企業紹介
  - ・農林課:農業法人紹介
- 今後更に情報共有など連携強化を図る

# IF

Don't Think, Feel!

かつて3.11でゼロになった  
フクシマだから感じられる

大学生・若手社会人向けキャリアイベント

「令和7年度福島イノベーション・コースト構想イノベーション地域実証型人材育成事業」  
として、福島イノベーション・コースト構想連携機構より受託しています。

参加費無料：1/17～18(土、日)

1歩踏み出せ！  
動けば未来は変わる

パネルディスカッション登壇者  
「わたしたちがチャレンジした理由」



### ゼロから女子サッカーチームを立ち上げ

佐藤 夏希  
READY SOCIAL株式会社  
1982年、福島県浪江町出身。2012年土木会社設立。2019年広告会社設立。2020年中国大連市にサッカーチーム立ち上げスポートインバウンドに参入。2025年に福島県に女子サッカーチームを設立し、社会貢献活動の一環としてより連携強化に取り組む。



### 学問と現場を行き来するフィールド派東大准教授

関根 秀  
東北大学大学院准教授  
東日本大震災・原子力災害伝承館1級研究員  
1984年、福島県いわき市出身。3.11直前から復興館を中心とした研究をはじめ、復興と地域コミュニティに関する実践と教育を続ける。研究対象は「人と地域」。復興館の復興に寄り添い続ける。社会に一番近い学問。



### 24歳で東北最大のキウイ農園運営

阿部 理太郎  
株式会社 Re-Fruits 共同代表  
2001年神奈川県横浜生まれ。慶應義塾大学法学部中。オーガニックで育った大塚市に移住。震災と原発事故で荒れた町の野菜産地キウイの復活のため、株式会社Re-Fruitsを共同創業し、東北最大のキウイ園「キウイの国」を運営している。

### イベント概要

名称 IF\_me (もし××なら)  
～出会いと熱が、未来を変える一日～  
開催日 2025年8月31日(日)  
会場 香澤高圧コンクリート(株)  
次世代中核施設 福島RDMセンター  
福島県双葉郡浪江町大字請戸北迫1-3  
費用 無償(交通費、昼食代込み)  
※東京駅までの交通費は各自負担  
対象 学生、社会人など  
参加人数 会場参加100名予定  
オンライン参加100名予定  
主催 READY SOCIAL株式会社  
協力 株式会社 想結び

参加  
申込みは  
コチラ



また、ご質問がある方は以下の窓口まで  
お問い合わせください。  
お問い合わせ先: info@readysocial.co.jp  
主催企業: READY SOCIAL株式会社

TURN ME  
OVER!

7:00  
3:00H

東京駅出発  
東京駅丸の内中央口徒歩1分  
丸ビル北側集合  
事前にお手洗いは済ませてきてください



車内も「フクシマ」  
「イノベ」を知る  
コンテンツ満載

10:00  
1:00H

東日本大震災・原子力災害伝承館見学  
2011.3.11にフクシマで起こった事実  
福島復興の現状と、  
人々が直面した現実を理解し  
困難を乗り越え、  
希望に向かって進む人々の姿から、  
社会貢献や未来への行動について  
考えるきっかけを得られる



12:00  
1:40H

企業からの「リングピッチ」  
企業担当者/社長がリングにあがる理由

会社の成長ストーリー、  
直面した困難、  
乗り越えた経験を、  
まるで戦いの場である  
リングの上から、  
参加者に向け熱く叫びます



最新  
農林水産  
医療

13:45  
1:30H

①パネルディスカッション  
「わたしたちがチャレンジした理由」

2人のチャレンジャーと3.11前からフクシマを知る教授  
のパネルディスカッション

②参加者とのオープントーク  
人生にIFがあったらあなたなら何する？！

参加者一人ひとりが自分自身の人生やキャリアを  
やらない理由を捨てて考えてほしい

当日のご連絡は080-9813-9550 (担当READY SOCIAL株式会社 佐藤) までお願い致します。



# 「IF\_me」イベント趣旨説明



## タイムテーブル

1. 企業紹介 1st
2. 企業紹介 2nd / 会場ツアー
3. パネルディスカッション
4. 映画
- 5.





# 企業リングピッチ「なぜ \_フクシマでチャレンジするのか」





## 企業ブース/質疑・マッチング





# パネルディスカッション / 質疑





# 「IF\_me」END PHOTO



【現地参加者】68名

【オンライン】35名

※参加大学等（一部抜粋）

【関東圏】	東京大学	昭和女子大学
早稲田大学	日本大学	法政大学
慶應義塾大学	筑波大学	東京理科大学
山梨大学	イグニション	東京都市大学
【関西圏他】	静岡大学	東北大学
立命館大学	神戸大学	立命館アジア
京都大学	京都経済短期	京都橘大学

【参加企業数】12社※参加企業（一部抜粋）

(株)ちーの	會澤高圧コンクリート(株)
大和ライフネクスト(株)	(株)宮田運輸
(株)バイオマスレジン福島	環境再生プラザ



# 先端産業経営者 大学生らと交流

浪江

県内の先端産業に関心を

持った若者が、浜通りなどで事業展開する企業と交流するイベントが8月31日、浪江町請戸地区で行われた。

双葉郡を中心にスポーツビジネスを手掛けている「READY SOCIAL」（大熊町）が主催。全国から参加した大学生ら約60人が、約10社の経営者らから浜通りで始めた新規事業などについて聞いた。

請戸地区に研究開発・製造拠点を開設した「会沢高圧コンクリート」（北海道苫小牧市）の会沢大志副社長は、復興に向けた取り組みの要点を聞かれ、「地域の歴史を大切にしながら、地域全体の流れと一体になることだ」と答えていた。

筑波大学の小沢日真梨さん(22)は「地方の事業革新の事例を知る貴重な経験だった」と話した。

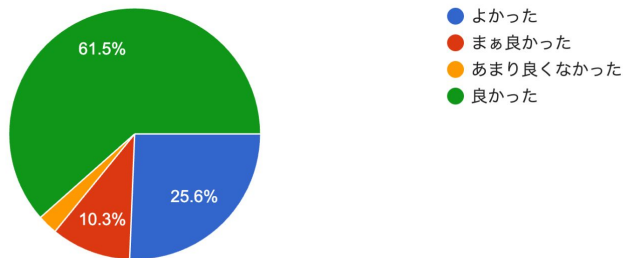


企業経営者らに質問する学生ら  
(8月31日、浪江町請戸で)

# 効果検証（39名回答）

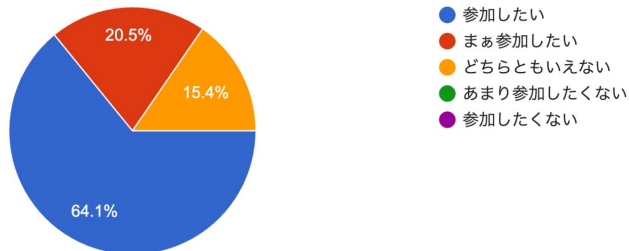
## Q1当プロジェクトの内容はいかがでしたか？

39 件の回答



## 来年以降も同様のツアー等があれば参加したいですか？

39 件の回答



Q1の回答を選択した理由を教えてください

。

39 件の回答

福島での挑戦を通して輝く人たちの姿を見ることで、人の可能性を感じることができたから。

いろんな企業の方のお話を聞けてよかった

直接事業者さんと話す時間が無いなどの時間の制約が大きかった。しかし震災についての知見と現在進行形で町を盛り上げようとしている方々のお話を聞けて良かった。

プログラムのスケジュールにもう少しゆとりがあると嬉しかった。内容はとて満足です。

色々な企業の話を知ることができたから

福島県を拠点に新しいことに挑戦している企業や事業の方の話を聞けて今まで自分の知らなかったキャリアのあり方を知ることができたため。また同時に自分の今後のキャリアについても考え直し、もっと新しいことに挑戦しようと思えたから。

福島といえば東日本大震災で原発事故の被害を受けたというイメージが強かったが、今回のイベントを通してそこから復興して福島をもう一度盛り上げようとしている皆さんの活動を知れたため。

自分が高校生という立場で、大学生や社会人向けのイベントに参加出来たことはとても良かった。震災によって0になった福島浪江町を中心とした地域に実際に足を運んで、何がその地で起こり、今に至るのかを知ることが出来、これから生きる上での知恵なども吸収することが出来たことです。

今まで福島に訪れたことがなかったのですが、福島の歴史であったり、そこに根付いて行動を起こされている方のお話を聞くことによって、新しい学びを得ることができました。

学生たちの目の色が輝いていたので。

いろいろな企業さんの話がきけたので、自分の今後の活動に生かしたい。

双葉郡で活躍する企業の話を知れた

期待していたもの以上の学びと気づきがあったからです。

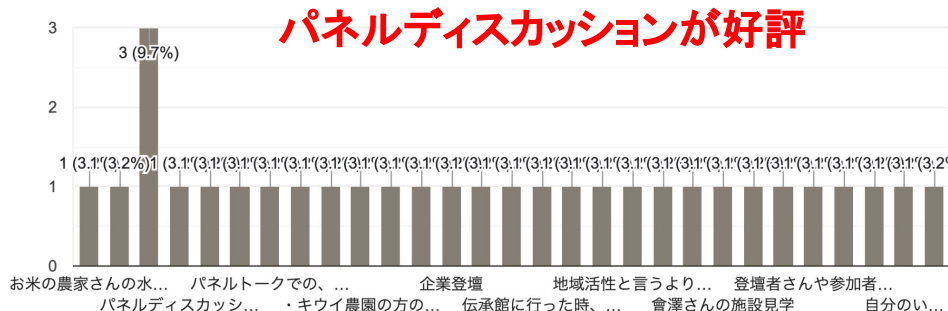
色々な話や考え方を聞けて、視野が広がりました！



## 効果検証（39名回答）

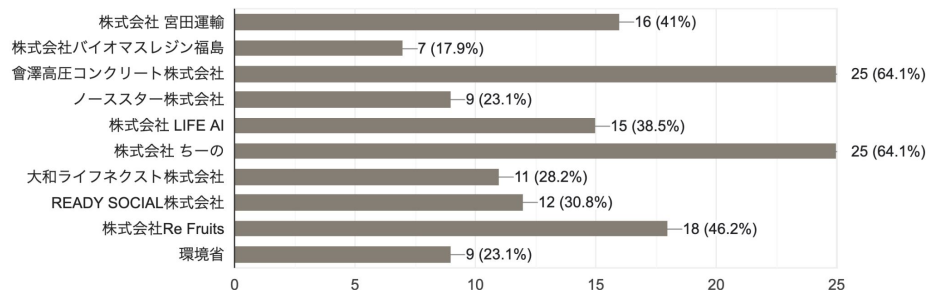
このイベントで最も印象に残ったことはなんですか？

31 件の回答



興味を持った企業はありましたか？（複数回数可）

39 件の回答

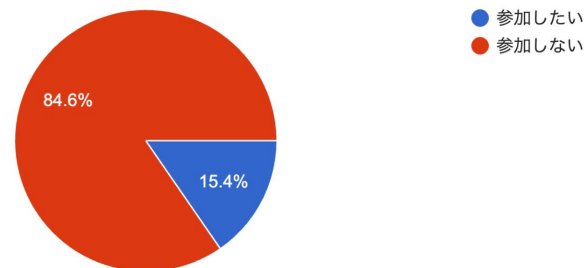


### 【要因分析】

良い点	改善点
実施の目的と評価が一致していた。	スケジュールがタイトになり過ぎ参加者に負荷であった
「過去から未来のアプローチ × 革新性」は特に評価が高かった	ツアー内容の告知をフェスティバルで告知ができず、ツアーの失敗に原因となった
参加者には事前にオンラインを開催し、趣旨説明や参加者の課題などをヒアリングしていたことが評価につながった	ツアー参加者の前日のや出発時の体調管理に配慮が足らず、現地到着できなくなってしまった

925～9/26の一泊二日の見学体験のツアーに参加したいと思いますか？

39 件の回答



## 次年度以降の事業計画等：地域での継続的な自走に向けて

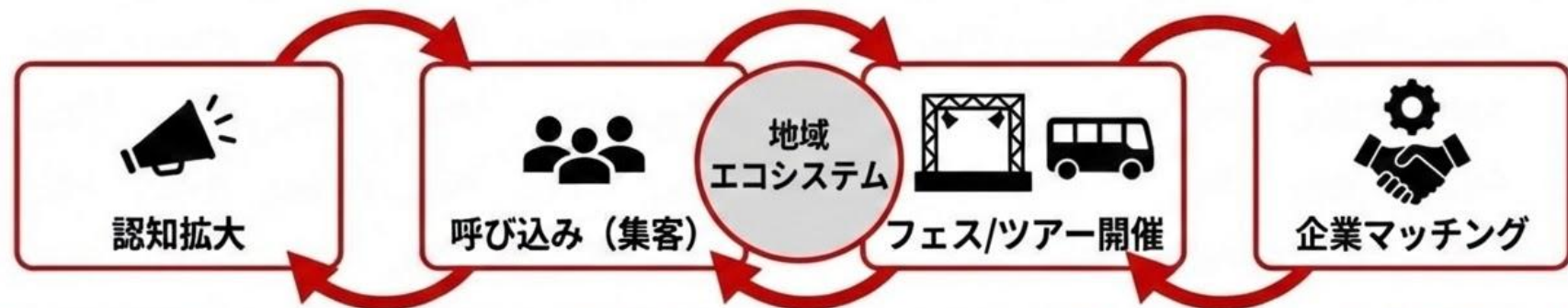
### 現状と基盤：FUKUSHIMA WWW.

- READY SOCIAL運営のFUKUSHIMA WWW.にて、選手やスタッフが一次産業や他産業に雇用者として関与。

大熊町・浪江町・双葉町で活躍する当社が主体となり、地域に根差した活動を展開。

### 今後の展開：地域づくり共同事業組合の設立検討

- 自治体との連携により、自主事業として「地域づくり共同事業組合」の立ち上げを検討段階。
- フェスの開催、集客、企業とのマッチングなどを継続的に実施可能にする体制を構築。



認知～呼び込み～開催～マッチングが循環するエコシステムを構築し、継続的な事業展開を実現。



## 次年度事業計画：フェス・ツアー連携と企業マッチングの強化

### フェス・ツアーの一体化とマッチング促進

- 今年度好評のフェスとツアーを一体の企画として認知させ、期間を空けずに実施。  
(参加人数：フェス30名×2回開催&ツアー8名×2回開催)
- アンケートで高評価だった企業代表者との対談時間を拡充。
- 企業の背景や風土を感じられるツアー内容で、雇用マッチングの機会を創出。



### FUKUSHIMA WWW.による連携企業開拓の深化

- スタッフが3自治体のほぼ全ての企業を訪問。
- サッカーチームを核とした事業者連携を、より広く深く継続的に推進。



# 参考資料：ツアー（非 公式） 2026/02/7-8 参加人数1名



8:00	東京発～浪江駅
11:00	学生寮坊により13:30の到着 ・関西からの学生団体が体調不良で引き返しツアー参加人数1名
3:00H	
12:00	浪江町にてランチ 道の駅なみえで地元グルメを堪能 B級グルメのふりかけも大人気！ なみえの駅に立ち寄ります
1:00H	
13:00	株式会社バイオマスレジン福島県 新素材を「捨てたお米」で開発 日本の食糧事情は減反政策や、食料の食糧確保など、バランスを崩れつつ困難。近年、米不足で「食糧不安」というワードも聞かれました。バイオマスというワードも聞き覚えのある言葉であれば実用化分です。この他にもある農業米を活用したプラスチックなど、ある企業の見方！
14:45	陸上で養殖！？ JR東日本が出資中の陸上養殖を見学！
0:30H	
15:30	銀行マンが一転農家へ？！ 浪江の大地
2:30H	
農作業	都内在住のバリバリの銀行マンが一転、浪江での農家へ転身。浪江の一産業の現状と今後の農業を考慮農作業や収穫体験を通じて共に学び共に考え、共に食す！

当日のご連絡は090-3286-2375（担当READY SOCIAL株式会社 佐藤）までお願い致します。

2026  
JAN  
17.18  
開催

## Event & Discussion

18:00	浪江の大地を食す！ それぞれの感想など交流
1:30H	
19:30	TASTUNO BASEでキャンプファイアー 急遽、浪江の大地で食卓を囲む！ 人数が少なくTASTUNO BASEでの宿泊ができなくなった為、浪江のスーパーに買い出し、個別の話を飛び出し、深い交流となった「東京大学の食糧問題」の話題へ！
3:00H	
9:00	浪江産の食材で、新たな名物を開発 学生目線の新たな浪江産品！
1:00H	
CREVA おくま	浪江産の新たな商品品をFUKUSHIMA WWW.が共に生み出し、販路を拡大していくという設定で学生と共に開発会議を行う
12:30	大野を出発 福島来訪ありがとう！
3:30H	

2026  
JAN  
17.18  
開催

## Event & Discussion

当日のご連絡は090-3286-2375（担当READY SOCIAL株式会社 佐藤）までお願い致します。







<b>8:00-11:00</b> 3:00H	<b>東京発ーいわき好間到着</b> 8:00発のいわき行き高速バス 集合は八重洲南口改札 (山際さん)	
<b>12:00</b> 1:00H	<b>浪江町にてランチ</b> 道の駅なみえで地元グルメ堪能 B級グルメのなみえ焼きそばも大人気！ なみえの道の駅に立ち寄ります	
<b>13:00</b> 1:30H SDGs	<b>株式会社バイオマスレジジョン福島見学</b> 新素材を「捨てるお米」で開発！ 日本の食糧事情は減反政策や、災害時の食糧確保など、バラツキを取るのが困難。 近年、米不足で「南蛮米」というワードも聞かれましたかと思いますが、 備蓄も期限を過ぎれば廃棄処分です。 この捨てられる備蓄米を活用したプラスチックを開発している企業の見学！	
<b>14:45</b> 0:30H 新技術	<b>陸上で養殖！？</b> JR東日本が出資中の陸上養殖を見学！ 一次産業の復興には多くの課題がある浪江町。 原発からの海洋放出など、ニュースで聞いたあのワード 現場は今、どんな状況？ そんな所で、進む取り組みとは？	
<b>15:30</b> 2:30H 新技術	<b>住友商事が取り組むまちづくり</b> Snow peakコラボのカフェ？ 2030年を目標に進む浪江町の新たな開発計画！ 金銭と取り組みも知りつつ、そんなことが進む浪江町で READY SOCIAL株式会社を取り組む内容を説明。 本プログラムの趣旨説明についても同時に説明 +振り返りや学生コメント	

当日のご連絡は090-3286-2375 (担当READY SOCIAL株式会社 佐藤) までお願い致します。

<b>18:00</b> 1:30H	<b>浪江で食事&amp;こんどこそで交流会</b> それぞれの感想など交流	
<b>19:30</b> 3:00H	<b>浪江テラスにチェックイン</b> 1日の疲れをいやすください 明日に備えて おやすみなさい！	
<b>9:00</b> 1:00H 地方 インキュベ	<b>大熊インキュベーションセンター見学</b> スタートアップの聖地 2019年に一部避難解除がされた大熊町の新たな拠点 元大野小学校をリノベーションした大熊インキュベーション施設ではこれまで1600社が通算登録し活動した。現在、152社が入居し活動をしている。	
<b>13:30</b> 1:40H	<b>FUKUSHIMA WWWの活動紹介</b> なぜ、ここで女子サッカーチーム？ 2011年の東日本大震災で大きな被害にあった、岩手・宮城・福島が2026年で15年を迎える今、福島の復興は終わっていません。まさに始まったばかりと言える状況を忘れさせない。そして、働きながら女子サッカー一選手としてプロを目指す選手たちの姿を通じて、福島の復興をワクワクと感動で包み込みたい思いの真相を聞く	
<b>15:21</b> 3:30H	<b>浪江を出発</b> 福島来訪ありがとう！	

当日のご連絡は090-3286-2375 (担当READY SOCIAL株式会社 佐藤) までお願い致します。

2026  
FEB  
7-8  
開催

# Event & Discussion







## 一次産業連携企業 13社

- ・ARK(株)
- ・恒栄電設(株)
- ・(株)ちーの
- ・(有) ランドビルド
- ・浪江未来ファーム(株)
- ・やごろうファーム
- ・(株)浪江の大地
- ・(株)Re Fruits
- ・福島舞台ファーム(株)
- ・Jyubako cafe(Snow peak)
- ・(株)バイオマスレジン福島
- ・(株)wood info
- ・Ichido(株)
- 他

